

「弾道ミサイル保有 検討の時期」

首相側近の自民・河井特別補佐

自民党の河井克行・総裁
 外交特別補佐は5日、訪問
 中のニューデリーでの講
 演で「個人的には、自衛隊
 が中距離弾道ミサイルや巡
 航ミサイルを持つ可能性を
 真剣に検討すべき時期に
 きていると考える」と述べ
 た。

河井氏は安倍晋三首相の
 側近として知られ、8月ま
 で首相補佐官を務めた。今

月中旬に予定されている首
 相訪印の調整でインドを訪
 問していた。

講演では、北朝鮮のミサ
 イルや核実験などの脅威に
 触れた上で、日本を取り巻
 く安全保障環境が「以前と
 比べて明らかに異なった段
 階に移った事実を認めなけ
 ればならない」として、ミ
 サイル保有に言及した。

(ニューデリー=奈良部健)

(3) 内政・総合 17版

「弾道ミサイル 保有検討の時」

河井総裁補佐が講演

【ニューデリー共同】

インドを訪問中の自民党の河
 井克行総裁外交特別補佐は

5日、首都ニューデリーで
 講演し、北朝鮮による6回

目の核実験などを受け「日
 本の平和と繁栄を守るに

は、自衛隊の中距離弾道ミ
 サイルや巡航ミサイルの保

有を真剣に検討すべき時期
 に来ている」と話した。個

人的な意見としている。
 攻撃型の兵器を巡って

は、専守防衛の観点から議
 論を呼ぶ可能性もある。

河井氏はインド政府やメ
 ディア関係者らを前に「イ

ンドとパキスタンなど世界
 の緊張地域では双方がほぼ

同じ数の中距離弾道ミサイ
 ルを持つといわれ、互いに
 抑止する関係にある」と主
 張。「朝鮮半島を含む極東
 地域は、(現在)極めて偏
 った戦力配置にある」と述
 べた。

河井氏はインド訪問中に
 インドの政府関係者らと会
 談。北朝鮮の核実験に対す
 る懸念を伝えるとともに、
 北朝鮮への圧力強化などを
 求めた。